

I 岡山大学の理念，目的等／薬学部の教育理念・目標等

1 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的，持続的に進展させるためには，常に新たな知識基盤を構築していかなければなりません。岡山大学は，公的な知の府として，高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

2 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は，「自然と人間の共生」に関わる，環境，エネルギー，食糧，経済，保健，安全，教育等々の困難な諸課題に対し，既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ，人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため，我が国有数の総合大学の特色を活かし，既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして，高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

3 岡山大学の教育理念・目標

岡山大学は，大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。

これまでの高度な研究活動の成果を基礎として，学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに，学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて，個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し，国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

教育理念

- ・ 自然と人間の共生を希求する。
- ・ 多様な文化・価値観を尊重する。
- ・ 地域と世界の発展に寄与する。

教育目標

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ・ 探求・創造する知性の育成 | －自ら問いかけ学ぶ教育－ |
| ・ 豊かな教養と高度専門性の追求 | －知の体系に根ざし専門を伸ばす教育－ |
| ・ 異文化理解に基づいた国際性の獲得 | －様々な文化・民族に親和する教育－ |
| ・ 社会的責任を担いうる個の確立 | －自己と他者を認め合う教育－ |

4 薬学部の教育理念・目標

薬学部は，①薬学に関する基礎及び応用の科学並びに技術を修得させること，②薬学に関連する社会的使命を正しく遂行し得る人材を養成すること，③薬学に関する研究を遂行して社会の発展に寄与すること，を目的としています。

【参 考】

岡山大学管理学則

（大学の目的）

第10条 本学は，広く知識を授け深く専門の学芸を教授研究して，知的，道徳的及び応用的能力を展開させ，日本国家及び社会の有為な形成者を育成するとともに，学術の深奥を究めて，その成果を広く社会に提供することにより，世界文化の進展に寄与することを目的とする。

5 薬学部ディプロマポリシー

・人間性・倫理観に富む教養【教養】

自然や社会，健康や疾病など多様な問題に対して関心を持ち，主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し，医療や創薬に従事する人に相応しい，豊かな人間性や高い倫理観に裏打ちされた教養を身につけている。

・目的につながる専門性【専門性】

医薬品の適正使用や開発研究を推進する実践的能力を発揮するための生命科学，疾病，医療に関する幅広い専門知識と技能を身につけている。

・情報を的確に収集・活用できる情報力【情報力】

医療領域のみならず，自然や社会の幅広い領域の情報を自ら収集・分析し，正しく活用できる能力を有すると共に，効果的に情報発信できる。

・時代と社会をリードする行動力【行動力】

医療領域のみならず，社会生活に求められるコミュニケーション能力，グローバル化に対応した国際感覚や言語力を有し，人との共感的態度を身につけ，地球規模から地域社会に至るまで，時代と社会をリードする行動ができる。

・生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

スポーツ・文化活動等に親しむことを含めて，生涯に亘って自己の成長を追求し，自立した個人として日々を享受すると共に，薬学や生命科学の発展に寄与するため，高い学習意欲を持ち研鑽を積むことができる。

6 薬学科ディプロマポリシー

・人間性・倫理観に富む教養【教養】

健康や疾病のみならず，自然や社会に関する多様な問題に関心を持ち，主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し，医療に従事する人に相応しい，豊かな人間性や高い倫理観に裏打ちされた教養を身につけている。

・汎用的な知識と技能に基づく専門性【専門性-1】

化学物質・生体分子・天然物質に関する総合科学の基礎的な知識と技能を身につけている。

・医薬品に関わる専門性と実践的技能【専門性-2】

指導的立場で，医薬品の適正使用を推進し，医療現場で生じ得る様々な問題を発見，解決できる薬剤師としての高い専門的知識と実践的技能を身につけている。

・臨床研究に関わる専門性【専門性-3】

医療現場での臨床研究に携るために必要な基礎的能力を身につけている。

・情報を的確に収集・活用できる情報力【情報力】

医療，疾病，医薬品のみならず，自然や社会の幅広い領域の情報を自ら収集・分析し，正しく活用できる能力を有すると共に，効果的に情報発信できる。

・時代と社会をリードする行動力【行動力】

薬剤師として求められるコミュニケーション能力，グローバル化に対応した国際感覚を有し，人との共感的態度を身につけ，地球規模から地域社会に至るまで，時代と社会をリードする行動ができる。

・生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

スポーツ・文化活動等に親しむことを含めて，生涯に亘って自己の成長を追求し，自立した個人として日々を享受すると共に，医療の進歩と薬学の発展に寄与するため，高い学習意欲を持ち研鑽を積むことができる。

7 創薬科学科ディプロマポリシー

・人間性・倫理観に富む教養【教養】

健康や疾病のみならず，自然や社会に関する多様な問題に関心を持ち，主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し，創薬科学を担い生命科学のフロンティアで活躍する人に相応しい，豊かな人間性や高い倫理観に裏打ちされた教養を身につけている。

・汎用的な知識と技能に基づく専門性【専門性-1】

化学物質・生体分子・天然物質に関する総合科学の基礎的な知識と技能を身につけている。

・創薬研究に関わる専門性【専門性-2】

創薬研究の実践的能力を発揮するため，化学系，物理系領域並びに生命科学，疾病，医療等の生物系，医療系領域に関する幅広い専門知識と技能を身につけている。

・情報を的確に収集・活用できる情報力【情報力】

生命科学のみならず，自然や社会の幅広い領域の情報を自ら収集・分析し，正しく活用できる能力を有すると共に，効果的に情報発信できる。

・時代と社会をリードする行動力【行動力】

創薬科学を担い生命科学のフロンティアで活躍する人に求められるコミュニケーション能力，グローバル化に対応した国際感覚を有し，人との共感的態度を身につけ，地球規模から地域社会に至るまで，時代と社会をリードする行動ができる。

・生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

スポーツ・文化活動等に親しむことを含めて，生涯に亘って自己の成長を追求し，自立した個人として日々を享受すると共に，次世代の創薬科学を担い生命科学のフロンティアで活躍するために，高い学習意欲を持ち研鑽を積むことができる。

6 沿 革

明治 23 年 2 月	第 3 高等中学校医学部（現岡山大学医学部）に薬学科が附設された。
27 年 9 月	勅令第 17 号により廃止された。
昭和 44 年 4 月	医学部に薬学科が設置された。
45 年 4 月	薬化学，生理化学及び生薬学講座が開講された。
46 年 2 月	医学部薬学科の第 1 期建築工事（3,989 m ² ）が完成した。
4 月	薬物学及び衛生化学講座が開講された。
47 年 4 月	薬品化学及び薬剤学講座が開講され，薬学科における専門講座（7 講座）が完了した。
48 年 4 月	大学院薬学研究科薬学専攻が設置され，小山鷹二教授が研究科長に就任した。
50 年 4 月	製薬化学科が設置された。
51 年 4 月	薬品分析学及び薬品物理化学講座が開講された。
5 月	国立学校設置法の一部改正により薬学部（薬学科，製薬化学科）が設置され，小山鷹二教授が学部長に就任した。
52 年 3 月	製薬化学科棟及び講義室の第 2 期建築工事（3,342 m ² ）が完成し，建物総面積 7,331 m ² となる。
4 月	微生物薬品化学及び生物薬品製造学講座が開講された。
53 年 4 月	合成薬品製造学及び環境衛生化学講座が開講され，製薬化学科における専門講座（6 講座）が完了した。
	附属薬用植物園が設置された。
	学部長小山鷹二教授の定年退官により，田中善正教授が学部長に就任した。
54 年 4 月	大学院薬学研究科に製薬化学専攻が設置された。
55 年 3 月	附属薬用植物園に管理棟（200 m ² ）が完成した。
56 年 3 月	附属薬用植物園に温室（128 m ² ）が完成した。
10 月	学部長田中善正教授の学生部長就任により，田坂賢二教授が学部長に就任した。
61 年 4 月	学部長田坂賢二教授の任期満了により，大和正利教授が学部長に就任した。
	大学院薬学研究科に生体調節科学専攻（後期 3 年博士課程）が設置された。
62 年 4 月	大学院薬学研究科生体調節科学専攻を移設し，新たに大学院自然科学研究科（後期 3 年博士課程）が設置された。
平成 2 年 4 月	学部長大和正利教授の任期満了により，田坂賢二教授が学部長に就任した。
6 年 4 月	学部長田坂賢二教授の定年退官により，篠田純男教授が学部長に就任した。
10 月	薬学基礎講座が開講された。
7 年 4 月	大学院薬学研究科に医療薬学専攻が設置された。
10 年 4 月	学部長篠田純男教授の任期満了により，原山尚教授が学部長に就任した。
11 年 4 月	国立学校設置法の一部改正により薬学部（総合薬学科）に改組され，薬品開発科学講座，分子細胞薬品科学講座，医療薬品科学講座及び衛生薬品科学講座が設置された。
	大学院薬学研究科が大学院自然科学研究科（博士前期課程）に統合された。
12 年 4 月	学部長原山尚教授の任期満了により，土屋友房教授が学部長に就任した。

- 13年4月 大学院自然科学研究科博士後期課程の改組により、生体調節科学専攻は生体機能科学専攻（薬学系3講座）となった。
- 14年4月 大学院自然科学研究科博士前期課程の改組により、2専攻（薬品科学、医療薬学専攻）5大講座となった。
- 16年4月 学部長土屋友房教授の任期満了により、木村聰城郎教授が学部長に就任した。
- 17年4月 大学院医歯学総合研究科と大学院自然科学研究科（薬学系）を統合し、大学院医歯薬学総合研究科の設置となり、部局化された。
- 博士課程生体制御科学専攻機能制御学講座、脳神経制御学講座の2講座、社会環境生命科学前項国際環境科学講座に薬学系6分野が加わることとなった。
- 博士後期課程創薬生命科学専攻は創薬科学講座、先端薬物療法開発学講座の2講座となった。
- 博士前期課程創薬生命科学専攻は医療薬学講座、医薬品開発科学講座、分子生命薬品科学講座、衛生予防薬品科学講座の4講座となった。
- 薬学部は医療薬学講座、医薬品開発科学講座、分子生命薬品科学講座、衛生予防薬品科学講座の4講座となった。
- 18年4月 学校教育法の一部改正により、薬剤師の養成を目的として臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とする修業年限6年の薬学科および研究者など多様な人材の養成を目的とする修業年限4年の創薬科学科が設置された。
- 20年4月 学部長木村聰城郎教授の任期満了により、岡本敬の介教授が学部長に就任した。
- 21年7月 合田榮一教授が学部長に就任した。
- 22年4月 薬学部本館の第1期改修工事が完成した。
- 大学院医歯薬学総合研究科博士前期課程創薬生命科学専攻が廃止され、大学院医歯薬学総合研究科博士前期課程薬科学専攻が設置された。
- 薬学部薬学科学生の薬学実務実習を開始した。
- 23年4月 学部長合田榮一の任期満了により、森山芳則教授が学部長に就任した。
- 薬学部棟第Ⅱ期改修工事および新棟が完成した。
- 24年4月 大学院医歯薬学総合研究科博士課程の改組により、生体制御科学専攻及び社会環境生命科学専攻の薬学系研究分野を変更、病態制御科学専攻に新たに薬学系分野を追加した。
- 大学院医歯薬学総合研究科博士後期課程創薬生命科学専攻を廃止し、大学院医歯薬学総合研究科博士後期課程薬科学専攻を設置した。